



# 日本植物病理学会ニュース 第53号

(2011年2月)

## 【今後の学会活動予定】

### 1. 平成23年度大会開催予定

日時：平成23年3月27日（日）～29日（火）

場所：東京農工大学 府中キャンパス

〒183-8509 東京都府中市幸町3-5-8

ルミエール府中

〒183-0055 東京都府中市府中町2-24

大会HPサイト：<http://www.knt.co.jp/ec/2011/ppsj>

連絡先：平成23年度日本植物病理学会大会事務局

〒183-8509 東京都府中市幸町3-5-8

東京農工大学農学部 植物病理学研究室内

TEL: 042-367-5691 (有江 力)

042-367-5692 (寺岡 徹)

FAX: 042-367-5691

Eメール：[byouri23@cc.tuat.ac.jp](mailto:byouri23@cc.tuat.ac.jp)

場所：Honolulu, Hawaii, USA

<http://www.apsnet.org/meetings/annual/Pages/default.aspx>

### 5. 国際微生物連合2011会議 IUMS

日時：平成23年9月6日（火）～10日（土）

国際細菌学・応用微生物学会議, 国際菌学会議

平成23年9月11日（日）～16日（金）

国際ウイルス学会議

場所：札幌コンベンションセンター

札幌市産業振興センター

<http://www.congre.co.jp/iums2011sapporo/>

## 【共催・その他】

### 1. 第4回アジア植物病理学会議 ACPP・第18回オーストラ

ラレーシア植物病理学会議 APPS (共催)

日時：平成23年4月26日（火）～29日（金）

場所：Darwin, Australia

<http://www.appc2011.org/>

### 2. 第4回国際 *Phytophthora/Pythium* ワークショップ

日時：平成23年5月23日（月）～28日（土）

場所：College Park, MD, USA

<http://www.psla.umd.edu/faculty/Balci/workshop2011/WORKSHOP2011Flyer.pdf>

### 3. 第15回国際分子植物微生物相互作用学会 IS-MPMI

日時：平成23年8月2日（火）～6日（土）

場所：国立京都国際会館

<http://mpmi2011.umin.jp/>

### 4. アメリカ植物病理学会 APS・国際植物保護会議 IPPC

ジョイント・ミーティング

日時：平成23年8月6日（土）～10日（水）

## 【本学会活動状況】

### 1. 部会開催報告

#### (1) 北海道部会

平成22年度日本植物病理学会北海道部会は10月14日、15日の2日間にわたり、札幌市のかでる2.7で開催された。参加者は88名であった。14日は第210回談話会が開催され、「2009年夏期の異常気象による農作物災害」のテーマで行われた。気象変動が作物生産に及ぼす影響は最大の環境要因として病害の発生に関与する重要なテーマであることから、農研機構北海道農業研究センター 濱寄孝弘氏による「2009年度7月を中心とする北海道における夏期の異常気象」、北海道立総合研究機構根釧農業試験場 牧野 司氏による「根釧地域における気象災害がトウモロコシへ及ぼす影響の実態調査」、農研機構北海道農業研究センター 田口和憲氏による「テンサイ湿害の発生実態に関する調査」、農研機構北海道農業研究センター 西尾善太氏による「低温・長雨による秋まき小麦における穂発芽被害の解析」の4課題の講演をいただき、討論を行った。15日は研究発表会および総会が開催された。講演はウイルス病、糸状菌病等合計18題で、活発な質疑応答が行われた。総会では庶務報告・会計報告等が行われ提案通り承認された。 (眞岡哲夫)

## (2) 九州部会

平成 22 年度の日本植物病理学会九州部会は、九州病害虫研究会との共催で、11 月 10 日、11 日の 2 日間にわたり、ニューウェルシティ宮崎（宮崎市）を会場に、約 90 名の参加者で開催された。講演数は 21 題で、内訳はウイルス病関係 7 題、菌類病関係 9 題、細菌病関係 5 題で熱心な討論が行われた。幹事会ならびに総会は初日の昼食時に開催され、中村正幸庶務幹事の進行で、役員の交代、庶務・会計報告、次年度の開催計画等が審議・承認された。その結果、次期部会長に九州大学大学院農学研究院の土屋健一氏が選出された。また、平成 23 年度の部会は大分県で開催されることとなった。また、岩井部会長より、平成 24 年度大会が福岡市にて土屋健一氏を委員長として開催されることと、当大会と同時に日韓合同シンポジウムが開催されること、ならびに、同年度より次期編集委員会を九州地区で担当する予定であることなどを紹介し、部会幹事を中心とした関係者の協力をお願いした。また、大島一里氏（佐賀大）より、去る 8 月 18～20 日に感染生理談話会が唐津市で成功裏に開催されたことが報告され、関係機関への謝意が示された。2 日目には第 35 回九州部会シンポジウムが開催され、鹿児島県農業開発総合センター茶業部の尾松直志氏による「チャ輪斑病における QoI 剤耐性菌の発生」、九州大学大学院農学研究院 JSPS 外国人特別研究員の Hoang Hoa Long 氏による「Bacterial endophytes: specific interactions with the host plants and their ecological consequences on plant growth and fitness（植物内生細菌を利用した植物病害の生物的防除法の開発）」、ならびに農研機構九州沖縄農業研究センターの奥田 充氏による「ウリ類退緑黄化ウイルスの生物学的特性と防除対策の展望」の 3 つの話題提供があり、活発な議論が行われた。（岩井 久）

### 【受章のお知らせ】

浅賀宏一氏が平成 22 年秋の叙勲において瑞宝中綬章を受章されました。瑞宝章は、国家または公共に対し功労があり、公務等に長年従事し成績を挙げた者に対して国が授与するものです。浅賀氏は「イネ品種のいもち病に対する圃場抵抗性に関する研究」で平成 3 年日本植物病理学会賞を受賞され、また四国農業試験場長、農業環境技術研究所長、当学会の学会長等を務められ、農林水産業の振興・試験研究の発展に多大な貢献をされました。さらに（株）サカタのタネに移られてからも、ISHI や日本種苗協会で種子病理や農業問題に取り組まれ、種苗業界においても大きな功績を残されました。（加来久敏）

### 【その他】

平成 22 年度大会から託児室が設けられました。利用された方に、感想を書いて頂きました。

#### 託児室を利用して

国立京都国際会館で開催された平成 22 年度日本植物病理学会大会の参加にあたり、託児室を利用させていただきました。参加する学会で子供を預けるのは初めての経験でした。2 人目の子供が生まれてからは病理学会への参加は難しいかと思っていましたが、学会会場に託児室が設置され、今回の学会に参加できることになりました。子供達も普段から保育園に通っているとはいえ初対面の大人と一日過ごすなんてできるのだろうか？と不安もありましたが、当日、子供に「今日は新しい保育園に行くんだよ。」と説明すると、「新しい保育園?!」と反応は予想外に嬉しそうでした。実際、託児施設では、子供達は部屋いっぱいのおもちゃで大満足で、迎えに行ってもなかなか帰ろうとせず随分気に入っていたようでした。2 日間利用しましたが、託児室が講演会場から近く、休憩時間に様子を見に行くこともできたので、預けている間心配になることもなく、学会に集中することができました。今後も、機会があれば是非利用させていただきたいと思います。託児室の開設にご尽力いただいた大会事務局の皆様はこの場をお借りして深く御礼申し上げます。 竹本（田中）愛子

### 【学会ニュース編集委員コーナー】

本会ニュースは身近な関連情報を気軽に交換することを趣旨として発行されております。会員の各種出版物のご紹介、書評、会員の動静、学会運営に対するご意見、会員の関連学会における受賞、プロジェクトの紹介などの情報をお寄せいただきたくお願いします。

投稿宛先：〒170-8484 東京都豊島区駒込 1-43-11

日本植物防疫協会ビル内

学会ニュース編集委員会

FAX: 03-3943-6086

または下記学会ニュース編集委員へ：

加来久敏, 桑田 茂, 畔上耕児, 植草秀敏, 佐藤 衛  
各委員宛

---

### 編集後記

新年おめでとうございます。学会ニュース第53号をお届けします。新年にあたり会員の皆様方のご発展とご健勝を祈念いたします。本年も学会ニュースを宜しく願い申し上げます。

さて、学会ニュース第53号ですが、本号はコンパクトな内容で、学会のご案内と学会活動報告が中心となっています。今年は当学会員にとって、国際的な催しがオン・パレードの年となります。4月にACPP会議がAPPSとの共催によりダーウィンで開催されるのを皮切りに、夏のIS-MPMIが京都で、またAPS・IPPC合同ミーティングがハワイで、さらに9月にはIUMS会議が札幌でと続きます。とくにIS-MPMIとIUMSの両学会は日本で開催されますので、とくに会員の皆様のご参加と協力をお願いする次第です。当学会の今年の大会は東京農工大学で3月27～29日に開催されますが、どうか奮ってご参加いただきますよう、この方も宜しく願いいたします。東京農工大学はじめ大会運営委員会の方々には大変お世話になります。本号の学会活動報告では北海道及び九州の各部会の報告が含まれますが、いずれも盛会裏に終わり、同慶の到りです。

学会にとって国際化も着実に進み、今年は関係する国際学会目白押し、今後もこの傾向はさらに強まる予定です。会員の皆様のこの面でのご発展を期待しております。

(加来久敏)

---